

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 5月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201119		
法人名	合資会社 けやきの家		
事業所名	グループホーム けやきの家		
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町潤和1355-8 (電話) 078-975-7614		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年5月12日

【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人,	常勤換算 5.45人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(165,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	5名	男性	0名	女性	5名	
要介護1	0	要介護2	3			
要介護3	1	要介護4	0			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	82歳	最低	79歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かなさと内科医院
---------	----------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな池を取り囲むように静かな住宅街の中で、木造のペンションを思わせる建物がある。1階部分がグループホーム、2階スペースは創設者(管理者)の住居となっており、家庭そのものの行き届いた生活環境が提供されている。ウッドテラスでのテーブルを囲んでのティータイムは四季の香りや流れを感じ、地域の人とのふれあいが行われている。センター方式を取り入れ、職員と管理者が一体となって、入居者一人ひとりの思いや変化を誠意を持って受け止め、日々のケアに取り組まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	昨年度の第三者評価内容や目的について職員間で話し合わせ、改善に向けて努力されている。更にサービスの質の向上に向けて熱意を持ち、継続して改善に取り組まれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	今回の自己評価については、職員と管理者で項目ごとに意見を述べ合い、取り組まれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は地域職員・地域包括支援センター職員・家族代表等のメンバーで構成されており、定期的開催されている。外部評価の報告や事業計画、サービス内容、要望について話し合われている。本年度から、自治会の中からもう1名会議メンバーに参加予定があり、地域密着型サービスとしての役割を深める取り組みがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	年に1回、家族会の会議が行われ、事業所の方針や意見交換が活発に行われている。個人的な報告や要望については、随時電話で連絡したり、面会時に収集し対応されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
	小学校区の盆踊り大会や懇親会等、自治会活動には職員、入居者共に積極的に参加され、日常の散歩や生活の中で、地域の人々と交流する機会を増やすように、熱意を持って取り組まれている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「最期まで人として生きていける家」を理念として、ひとつの普通の家で普通の生活ができるよう支えるケアをしている。昨年より取り入れているセンター方式の5つの視点を重視し、実践に向けて取り組んでいる。		開設4年目となり、地域にすっかり馴染んだ普通の家としてのホームになっている。運営の柱となる理念は職員だけでなく、家族や訪問客にも分かりやすく伝える工夫をして欲しい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念に基づいた5つの視点を理解し、日々の業務に於いて実践できるよう努めている。5つの視点は事務室内に掲示されており、折に触れて確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会して、職員を含めて行事に参加している。懇親会や盆踊り・草抜き・小学校の行事などを通して、地域の人々との関わりを積極的に持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んだ上で職員会議で話し合いを持ち、全体としてまとめている。第三者評価受審は今回で4回目となり、現在は1年のまとめとして位置づけて、サービスの見直しや改善に活かしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	平成19年度は4回開催している。地域包括支援センターの職員・民生委員・家族会代表・ホーム管理者がメンバーで、第三者評価の結果報告も議題にして話し合いが行われている。地域住民の参加により、自治会への間口が広がるなどの効果が出てきている。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の保健師に肺炎ワクチンの効能についての相談をするなど、市町の情報を提供してもらい、サービスに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1回、状況報告書により入居者の様子を報告している。預かり金の報告については、出納報告書(レシート添付)で行い、紙おむつ・パット購入時は別途書類で報告している。又、家族の訪問時などの機会を捉えて暮らしぶりなどの話をしている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会を年1回開催している。運営推進会議にも出席してもらい、意見・苦情を気兼ねなく話していただける場を設けている。要望などは気軽に電話でも受けられるよう、普段から家族との関係作りに努めている。		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	入居者が職員の交代で受けるダメージを抑えられるように、引継ぎ期間を長く取るなどの工夫をしている。また、管理者は何よりも職員が働きやすい職場にすることを心掛け、職員の退職が最小限にできるよう配慮している。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の研修を毎年受講している。職場会議で入居者の状況に応じて必要とされる学習会を設けたり、外部研修の受講者による内部研修を実施している。新任職員には、数時間座っただけの状態で過ごしてもらい、動けず・しゃべれずの入居者の立場になって気付きをレポートするという研修を行っている。		職員に個人面接を行い、不安な部分のフォローもされているが、今後は一歩進んで、計画を立てて段階的に力をつけていけるよう、レベルアップのための土壌作りを考えて欲しい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神戸市西区内のグループホーム連絡会が年に3～4回開催され、参加している。10事業所くらいの参加があり、交流の機会となっている。今年度は他のホームの運営推進会議に出席し合うという計画もあり、協働に向け動き出している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	退院後などで心身とも落ち着かない時は、家族が入居者の居室に泊まるなど、状況に応じて柔軟な対応をしている。ホーム内に居場所を見つけ、家族と相談して好きなことをしてもらいながら、馴染めるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事などを一緒に行う中で、年長者である入居者から教わる場面があり、それを大切に思っている。花の名前を教わったり昔の生活文化を聴いたりしている。		共に暮らす人生の先輩として接する中で、入居者の喜怒哀楽に関心を寄せながら、さらにそのような教わる場面を増やして欲しい。そのために、いろんなセッティングや工夫・声かけを考え、積極的に引き出す努力をして欲しい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を取り入れて、意思表示の難しい入居者も、動作や表情の特徴を記録し、思いの把握に努めている。また、家族に生活歴を聞き、希望や意向を本人の視点に立って検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は2ヵ月に一度作成している。日々のケアの中で、気付きを経過用紙に記入し、それに基づいて検討し介護計画を作成している。</p>		<p>経過用紙の記入様式を最近変更し、職員の気付きやアイデアを的確に記録できるようにした。今はそれをしっかり書くことに重点を置いている。今後はその経過記録の意見やアイデアをさらに反映した介護計画の作成が期待される。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>行動が落ち着かなくなるなど対応が難しくなった時は、「24時間生活変化シート」で1週間集中して客観的に状況を把握し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>状況や要望に応じて、職員が通院介助をするなど、柔軟な支援を行っている。また、医療連携体制加算の事業所として、24時間健康管理・医療活用の強化をしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医が遠方で定期通院がある場合は、家族に通院介助をお願いしているが、その他の通院や入院時の付き添いなど、状況に応じて支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>まだ事例はないが、契約時に「重度化した場合の指針」を示し、同意書をもらっている。家族や医師と相談しながら対応を検討する。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねるような言葉かけはしていない。個人情報の保護・秘密保持に関しては採用時に誓約書を交わし、重要性を理解している。</p>		<p>接遇については、さらに向上を目指し取り組みたいという職員の思いがある。レベルアップに期待したい。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間など、一人ひとりのペースに合わせて、柔軟な対応をしている。嫌なことを強制はしていないが、その人にとって本当にそれで良いのかというジレンマを抱えている。やりたいこと・したいことを見出すのが難しいという思いがある。</p>		<p>それぞれの入居者の希望を把握するため、喜んでくださったことの記録を充実させ、共有できるようにした。その人らしい生活を支援するためにいるんな気付きを活かして欲しい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は、業者の献立に沿った食材の宅配を利用している。時によりキャンセルして、雛祭りなどの行事食やお誕生日には要望に応じたメニューに変更している。また、2～3ヶ月に一度は、みんなでおやつ作りを楽しんでいる。		献立を考え、食材を決めて買い物をし、一緒に調理したものを共に味わう。大変ではあるけれど、入居者一人ひとりにできることを最大限に引き出して、食事を楽しむそのような機会を増やして欲しい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	だいたい2日に一度の入浴としているが、無理強いはせず、タイミングを考えて支援している。拒む人に対しても入浴の記録を見て、言葉がけを工夫し入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かした、得意なことの役割をもってもらっている。繕い物・ペンキ塗り・食器洗い・ごみ出し・新聞とりなど、張り合いのある日々が過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課としている。他にも買い物に行ったり、図書館で本を借りてきたり、喫茶店に出かけたり、希望に沿った外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしておらず、出入りは自由にできる。ドアが開くとメロディーが流れるようになっており、出入りが分かるよう工夫されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	緊急時のマニュアルが備えられている。同じ建物に管理者家族、近隣に職員宅、民生委員宅があり、緊急時にはすぐに対応ができる。		消防署の指導も受け、普通の住宅の扱いになっているが、介護度の高い入居者もおられるので、いざという時慌てず確実な誘導ができるよう、定期的に避難訓練をされることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	個人ファイルに食事・水分の摂取量の記録がされている。食事の栄養バランス・カロリー量については、食材宅配業者により、栄養士が管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共用空間であるリビングはこじんまりしているが、テーブルの配置やのれんを掛けるなどの配慮がされ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。リビングから繋がるテラスは開放的で、景色で季節を感じながら外気欲をしたり、前を通行する近隣の方とのふれあいも楽しみにされている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	それぞれ、ベッドやカーテンなど好みのものを持ち込み、違いのある居心地の良い居室となっている。和室の居室もあり、テレビの持ち込みをされたり、壁が好みのもので飾られたり、プライバシーを大切に安心して過ごせる工夫がされている。		

 は、重点項目。